

エジプト 来たる生食用ブドウシーズンの課題

[FreshPlaza](#) 2024年3月28日

グリーンIAP社の技術支援・開発の責任者で、栄養学の専門家でもあるヘシャム・タンタウィ氏は、エジプトの今年の生産条件は、農学的にも財政的にも、生食用ブドウの生育段階を難しくし、波乱に満ちた出荷シーズンを告げていると言う。(以下「」は同氏の発言)

「最近まで最適な気温で、全般的に15度を超えていたが、突然通常よりも気温が低くなり、これが開花期に影響し、受粉率の低下や早期の落果につながっている。一部の品種は他の品種よりも影響を受けている。」

「その結果、ブドウの生育も遅れているが、これが出荷の開始が遅れることを意味するかどうかはまだ分からない。一部の生産者が5月上旬に早期に収穫したとしても、大部分の収穫は例年よりも遅れることが予想される。」

「異なる生産者の収穫時期に時間差が見られるのは良いことである。これは、シーズンを通して出荷量のバランスをとる上で良い兆候である。しかし、エジプトの競争上の最大の優位性は、市場への早期の出荷であり、特に2018年から現在まで、最初の1か月間は競争がないことである。出荷の開始が遅れると、商業的に難しいことになる。」

経済状況もまた、これからのブドウのシーズンに課題をもたらしている。「状況をさらに複雑にしているのは、為替レートの頻繁な変動である。販売上の制約により、技術的な意思決定、つまり農作業が非常に困難になっている。」

エジプトは、米ドルに対する自国通貨(エジプトポンド: EGP)の下落に長い期間直面してきたが、現地通貨は最近大幅に切り下げられた。「この切り下げは、生食用ブドウの生産者らが農業資材を輸入した直後に起こった。したがって、生産コストは現在の米ドルレートに対して高すぎた。したがって、これらのコストを輸出価格に織り込むことは困難であり、同時に価格の上昇が避けられない。」

「エジプトでの生食用ブドウの生産コストは、1ヘクタール当たり約50万エジプトポンド(約160万円)とこれまでで最高に達しており、これは昨年2倍である。」

紅海危機もこのセクターに影を落としているが、ヘシャム氏は自信を失っていない。「あまりにも長く続いているこの危機を封じ込めるために多くの努力が払われており、徐々に正常な状態に戻りつつある。できればブドウの出荷シーズンが始まる前に正常化してほしい。」

エジプトでは、昨年生食用ブドウ部門が直面した問題を解決するための取り組みも展開されていると、同氏は報告する。「物流の面では、エジプトの新しい海運会社が間もなく稼働し、これはヨーロッパへの輸送の混雑を回避するのに役立つ。輸送時間に特に敏感な生食用ブドウのためになるだろう。」

「政府はまた、海賊版ブドウ品種が出荷されていないか監査するために、技術的手段に裏打ちされた新しい措置を導入した。また、種苗会社は苦情処理の仕組みを使えるようになり、疑わしい園地の監査を発動できるようになる。」

ヘシャム氏は、「品種の選択に関しても、国レベルで大きな変化が見られ、これまで見過ごされてきた特定の品種の状況が大きく変化し、復活を遂げている。栽培面積と生産量の点で、こうした傾向の大きな勝者は、スーパーアとアーリースイートの両品種である。また、レーズン分野でも急速な進展が見られる」と結論付ける。

ヘシャム氏は今週、ある民間テレビ放送局が後援する「100万エーカー」事業で、同事業の科学委員会と同業者による投票の結果、「植物栄養コンサルタント」部門の賞を受賞した。同氏は、「この賞は私にとって大きな意味があり、エジプトの生食用ブドウ産地を振興するためにエジプトの生産者と協力するという私のコミットメントを強化するものだ」と述べている。

執筆者: ユーネス・ベンサイド